

パン向き小麦品種「ニシノカオリ」の良質安定栽培のための栽培法

「ニシノカオリ」は、出穂期～出穂期10日後に0.4Nkg/aの追肥を行うことでパン用小麦としてのタンパク質含有率が適正となり、標準施肥並の収量が得られる。また、早播することで成熟期は早進化を図ることができる。

農業研究センター 農産園芸研究所 作物研究室 (担当者: 藤井 康弘)

研究のねらい

近年、国内産パン用小麦の需要が高まる中で、実需者からはパン用小麦として必要な13%のタンパク質含有率が求められている。熊本県はパン用小麦として「ニシノカオリ」を認定品種に採用したが、「ニシノカオリ」の慣行栽培におけるタンパク質含有率は地域差はあるが11%程度であり、タンパク質含有率の向上が必要となっている。また「ニシノカオリ」は他の小麦品種と比べると、成熟期がやや遅いという特性を持つ。

そこで、タンパク質含有率の適正化のための施肥法を明らかにする。また、早播することによる成熟期の早進化について明らかにする。

研究の成果

1. 出穂期～出穂期10日後に窒素0.4kg/aを追肥するとタンパク質含有率が安定して高くなる(表1、図1)。
2. 12日早播きすることにより4日成熟期を早進化することが可能である(図2)。

普及上の留意点

1. 「ニシノカオリ」栽培における収量・タンパク質含有率向上技術として活用できる。
2. 出穂前後の窒素追肥により検査等級(普通小麦としての)が低下することがある。
3. 出穂期～10日後追肥の場合、散布した肥料が穂や葉にかかり、白く色抜けしたような肥料やけを生じることがあるが、収量・品質には直接影響はない。

表1 「ニシノカオリ」における施肥法と、生育・収量・品質

試験区名	施肥様式 (Nkg/a)		出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	子実重 (kg/a)	千粒重 (g)	検査 等級 (1-7)	タンパク質 含有率 (%)
	基肥-追肥 出穂期10日前	(1月下旬)-追肥 (2月下旬)- 出穂期-出穂期10日後						
標準	0.5-0.2-0.2-0	0-0-0	4.09	5.26	43.7 a	38.2	2.2	11.6 a
追多	0.5-0.2-0.4-0	0-0-0	4.11	5.28	55.6 b	39.3	2.0	11.8 a
出穂-10肥	0.5-0.2-0.2-0.4	0-0-0	4.09	5.28	48.9 c	38.7	3.8	13.0 ab
出穂期肥	0.5-0.2-0.2-0	0-0.4-0	4.11	5.27	44.9 ac	39.6	3.5	13.6 b
出穂+10肥	0.5-0.2-0.2-0	0-0-0.4	4.09	5.27	44.8 ac	40.0	3.0	13.5 b

注1 2001~2003の試験成績の平均値。

注2 検査等級は1(1等上)~8(等外)で示す。

注3 子実重、タンパク質含有率について、同一のアルファベット表示間には有意差(1%水準)はない。

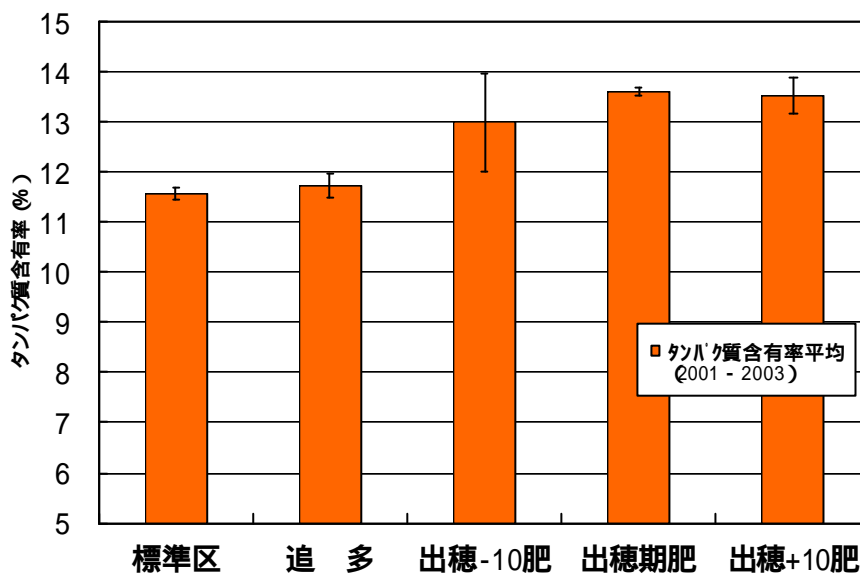


図1 施肥法によるタンパク質含有率の変動

早播き (11月中旬播種)	11/13播種	4/7出穂期	5/24成熟期
標準播き (11月下旬播種)	11/24播種	4/11出穂期	5/28成熟期

注 2003年の試験結果。

図2 「ニシノカオリ」の早播による出穂期・成熟期の変動